

# タックルの作法

海の変化を察知する  
タックルとは。

## 【サーベルマスターリミテッド91HH170】

「バイブレーション釣法においては硬い竿ほどテンヤが動く、止まる、が明確に分かります。さらに感度に優れるブランクスと穂先であれば、テンヤの動き、アタリはもちろん、わずかな抵抗もリニアに手へと伝わってきます。これが潮ヨレを探る際の決め手になるわけで、1本が釣れるのはもちろん、釣れたタナ、アクションを正確に再現できることにつながります。サーベルマスターリミテッド91HH170は、研ぎ澄まされた感度とこれまでにない操作性により、再現性をも実現させた、バイブレーション釣法に特化した竿といえます」

91HH170  
●SPEC 全長1.70m、2本継ぎ、仕舞寸法124.2cm、自重153g、テンヤ号数30～60号、カーボン含有率98.8%、価格＝8万2500円 ※2023年9月発売



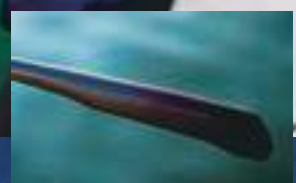
▲【Xシートテクニカルガングリップ】  
フロントトリガー部の設置により優れた操作性を実現した新設計【Xシートテクニカルガングリップ】。左右両用で疲れにくく動作が安定する



▲バミング性と操作性を高次元で備えたグリップ形状は使い手を遠く左右両用

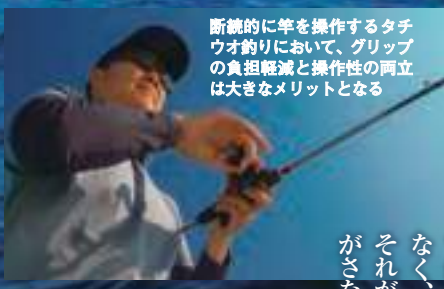


▲【激短カーボンリッド穂先】  
91HH170は超高感度・激短カーボンリッド穂先を搭載。余分な動きを極限まで抑えた超硬仕様



▲【カーボンモノコックグリップ】  
魚信や潮ヨレなど、触れている部分に様々な変化を伝えるカーボンモノコックグリップ。リミテッドは軽量＆高剛性のハイレゾタイプ

▲フォースマスター200、600など小型電動リール使用時の操作性、安定性が飛躍的に向上



断続的に竿を操作するタチウオ釣りにおいて、グリップの負担軽減と操作性の両立は大きなメリットとなる

▶【リミテッドのみの高弾性ブランクス】  
最高峰のフラッグシップモデル・リミテッドのみに採用される高弾性素材をベースにシマノロッドテクノロジーを余すことなく注入したタチウオ専用ロッド。全国のあらゆる釣法に対応する真ん中調子、82MH180と、バイブレーション釣法に特化した91HH170のラインナップ



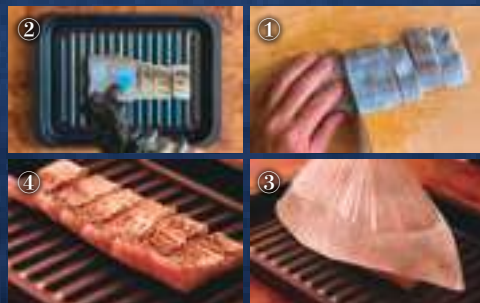
おきます。これら海中のイメージが明確に描ければ、1本が釣れた後、それを再現することができます。自分の中で釣果への理由付けができると、迷いなく、確信を持って釣りができます。それが、結果的にドラゴンの時合を逃がさないことにつながると思います」

富所さんの釣りは、テクニクやタックルを複雑にすることで答えを出すのではなく、無駄を削ぎ落としていく。その答えが「省エネバイブレーション」と超硬先調子の「サーベルマスターリミテッド91HH170」。実にシンプルで、ドラゴンへの最短距離である。

- ① タチウオを三枚におろして大きめの平切りに
- ② 身をバットなどに並べてガスバーナーで炙る
- ③ 氷水をビニール袋に入れ、炙った面に乗せての熱を取る
- ④ 皮が破れやすいのであらかじめ切ってから炙るのがおすすめ

# 食の作法

タチウオの炙り  
～香ばしさと脂の甘さが絶妙～



「船釣りの作法」動画公開中。

YouTube SHIMANO TV  
公式チャンネルにてご視聴いただけます。

© Presented by SHIMANO

©取材協力 / 三浦半島走水港・教至丸

## 【省エネバイブレーションは簡単にできる】



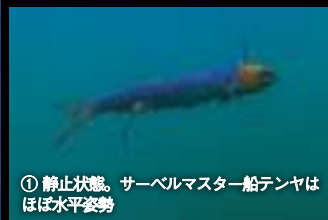
① 竿を水平や下下に構えた状態から



② 竿を小さく弾くようにシャクって



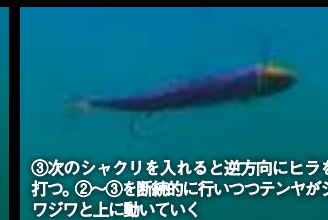
③ 手首の力を抜くように自然に戻す。これを断続的に繰り返す



① 静止状態。サーベルマスター船テンヤはほぼ水平姿勢



② 竿を弾くように小さくシャクるとテンヤがヒラを打つ



③ 次のシャクリを入れると逆方向にヒラを打つ。②～③を断続的に行い、つづつテンヤがジワジワと上に動いていく



## 【サーベルマスター船テンヤ】

◎スリムヘッドで沈降速度が早く、水中では水平姿勢となり、ロッドアクションに対し敏感にヒラを打つ、バイブレーション釣法に適したテンヤ。  
◎30号、40号、50号、60号のラインナップ、全10色。



# 省エネバイブレーションの作法



この日はタチウオの反応が狭く、潮ヨレが現れた瞬間を逃さず、狭い範囲を集中的に誘うことがカギだった

ルあるうちの、バイブレーション釣法に特化した「91HH170」である。表記は91だが、実際に手に取ると91以上に先調子に感じ、テンヤは明らかに道糸の抵抗まで伝わる感度に、「一瞬怖さを覚える。それほど「尖った」テンヤチウオロッドだ。

省エネバイブレーション釣法における究極が竿への入力10に対しテンヤが10の動きをすることだとすれば、現在、限りなく理想に近い竿といえるだろう。「テンヤが動いているか、止まっているかはもちろん、縦の潮目、タチウオの真のタナといえる潮ヨレによるテンヤの重さの変化も、サーベルマスターリミテッド91HH170は明確に伝えてきます」

ハンドルを巻く距離は1シャクリにつきハンドル1/6回転ほどから、タナを探るときは大きめ、潮ヨレなどを集中的に探るときは小さく、アタった魚を掛けに行くときは巻かずに、など、そのつど調整する。

この日、走水・猿島沖にかけてのタチウオ船団は全般的に苦戦していた。その中であって富所さんは順調に釣る。「指示タナを探りつつ潮ヨレを1回でも多く察知し、どの水深で、テンヤがどんな動きをしたときにアタリが出たのか、掛かったのかをしっかりと覚えて